

神を殺そうと企む世界的陰謀が存在する

Greatchain

2022/09/07

最近の NHK 番組の一つに「ミステリアス・プラネット」というのがあるのを知った。これが「ダーウィンが来た」に代わるものなら、歓迎すべき一つの進歩である。そうでないなら、我々にとって相変わらずの闇が続く。ダーウィン進化論は明らかに、陰謀団による陰謀として、エセ科学として存在している。これに対し、我々を闇から解放する有神論仮説は、世界を mysterious なものとして受け入れる。神は、世界を閉ざす暗黒のミステリーでなく、明るい合理的なミステリーとして、世界の解放者として存在する。

そして我々が、なんとなく「陰謀」が存在するように、この世界を不気味に感じているものは、彼らの作った牢獄に我々を閉じ込めようとする、「陰謀団」の巧妙な工作によるものである。陰謀は実在する。

彼らの悪辣なやり方を、巧妙なスリの集団に喩えることができる。今、ほんのわずかの、しかし複数の、悪賢い集団がスリを働こうと企んだとしよう。彼らは大胆に、目当てのカモにすり寄り、巧みに金品を奪うと、それがバレる瞬間に、大声をあげて「スリだ、スリだ」と叫ぶ。すると周囲からも同時に、数人が同じ声をあげて集まり、たちまち被害者の手を振り上げる。被害者は呆然として、なすすべもなく犯人に仕立て上げられるだろう。

これが「陰謀団」と言われる権力者による、犯罪の手口である。彼らは少数だが権力者として、巧妙に、組織的に行動しているので、ほとんどの人はそれに気づかないでいる。

これについては、「世界を本当に支配しているのは誰か」という記事をぜひ読みたい。<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/150521.pdf> その冒頭に、ウッドロー・ウィルソンや、ベンジャミン・ディズレーリの言葉が引用されている。

「私が政界に入って以来、私に個人的な打ち明け話をする人たちが何人かいた。アメリカの商業や製造業に携わる大物たちの一部は、何かを怖れている。彼らはどこかに、非常にうまく組織され、敏感で、用心深く、相互に絡み合い、完全で、隅々まで浸透している権力集団があって、それを非難するようなときには、声をひそめたほうがいいことを知っている」——28代米大統領ウッドロー・ウィルソン（1856-1924）

「だから、親愛なる Coningsby さん、世界は、我々がちょっと想像できない人たちに支配されていて、背後にいる人でなければ、それが誰かわからないのです」——英首相ベンジャミン・ディズレーリ（1804-1881）

これは、19 世紀から 20 世紀初頭に言われた言葉だが、これと全く同じことが現在でも言われており、今でも日本の主流新聞は、誰かが陰謀の事実に言及すると、大慌てで、それは「〈陰謀論〉と言われるもので、ありもしない事実を、陰謀であるかのように言いふらす者たちの、馬鹿げた主張だ」と言って、必死にこれを否定しようとする。これは、陰謀論者こそ世界を混乱させる悪者だと言いたいのである。これは、アメリカの伝統的な、自分でやっておいて「あいつがやった！」と叫ぶ、「ニセ旗戦術」false flag と本質的に同じものである。それは今でもウクライナで使われており、本当のことを報道できないようにする、世界支配者たちの戦術である。ニュース報道のトップ責任者は、ここに言われているように、「何かを怖れていて、声をひそめて」本当のことを言わないようにしている。

これは非常に底の深い戦術であって、彼らの世界支配は学問や科学にまで及んでいる。それはこの記事で、次のように言われている。

「人間の最も美しい構築物であり、地上の力と豊かさの根源である科学的知識、すなわち人間に内在する思考と、驚きと、畏怖の能力が組織された、最も荘厳で強力な科学的知識が、人類を隷属させる道具となり、ごく少数の者たちの握る、非常に危険な道具になったということは、悲しくも痛ましい事実である。これらの人々は、科学者を“雇い”、当然の権利のように、彼らが自分で創り出し発明した物をも、奪い取るのである。そしてその力は、人類にとって計り知れない、人的・物的な犠牲を強いられ、彼ら自身の目的に利用されるのである。この一握りの者たち、異常で最も富裕な家族たち、すなわち「エリート」の目標は、彼らの支配する New World Order（新世界秩序）、あるいは One World Government（一世界政府）の樹立である。」

ここで「人間に内在する思考と、驚きと、畏怖の能力」と言われ、「真の荘厳で強力な科学的知識」と言われているものは、明かに、神から授けられた知識を意味する。すなわち彼ら「陰謀団」どもは、神の力を奪い取ろうとする者たち、どこまでも邪悪な者たちである。それは誰が考えて、成功するはずのない計略である。彼らは、私欲のために神を騙し利用しようする愚か者であり、そんなことがうまくいくはずがない。

「秘密性と匿名性は、この「エリート」たちの活動にとって、絶対的冷酷、徹底的欺瞞、それに最も汚いスパイ行為や、ゆすり行為と共に、本質的なものである。エリートたちは、諸国家を対立させ、宗教や他の伝統的価値の破壊を目論み、混乱をつくり出し、意

図的に貧困と悲惨を拡大させ、政権を奪って自分たちの手下を、その後釜に据える。これらの家系の者たちは、「血がまだ通りを流れている間に、買い占める」(ロスチャイルド)ことを方針としている。戦争、“革命”、それに暗殺は、彼らの戦術の一部であり、その目的は、たとえ何世代かかろうと、伝統的文明や伝統的宗教を破壊すること、富と権力を蓄えること、敵対者を減ぼすこと、誓った目標に向かって無慈悲に突き進むことである。彼らは隠れた、また公然の、結社や組織を通じて活動している。」

これについても、彼らの変わらぬ基本方針が、現在でも正確に継続されていることが、わかるであろう。それは現時点の世界情勢に、見取り図のように現れている。

彼らが、正確で客観的であるべき学問や科学を、自分たちの利益のために利用しているという恐ろしい事実は、彼らが「学会」を創り出しているという事実に現れている。学問はいくつかの分野に分かれ、総合大学の各学部は、それを基本にして、「〇〇学会」を作っているのは周知の事実だが、実はその起源は、彼ら「陰謀団」によるものだとされている。その最も明らかな特徴は、学問はすべて、無神論や唯物論に基づいていなければ、学問ではないというものである。典型的な例として、「宗教学」というものがあるが、それは無神論という「科学的で客観的な」ものに、基礎づけられねばならないことになっている。昨今はやりの「人間学」(実は筆者自身が関与した)でも、基本的には同じだといってよい。

そしてこれが、新聞やテレビ報道をも支配するようになり、この宇宙の有神論的仮説は、**仮説としても許されない**ことになっている。この仮説を、通常の論理として展開し、巧みに論証して「神仮説」God hypothesis を提唱した「インテリジェント・デザイン」は、いまだに一般社会では敵意を持たれている。我々が「神」とか、それに類する言葉を、最も恥ずかしい猥褻な、放送禁止用語のように考えているのは、そう飼いならされているからである。一度これを口にしたアナウンサーは、確実に生き残れないであろう。

このことの異常さを我々は、異常とも思わなくなっている。しかしこれは、原爆投下が「陰謀団」の計画であったように、彼らの計略であり、その計略とおりに、我々は魂を引き抜かれつつある。すなわち奴隷化されつつある。我々は、彼らの思うつぼにはまって生きている。

彼ら陰謀団は、我々より遥かに知能が高く、わが国における神の復活を最も恐れ、必死にそのための画策をしている。当然ながら「インテリジェント・デザイン」も、彼らの最も恐れるものだが、幸か不幸か、日本人の大半は、それに十分な関心をもっていない。彼ら陰謀団が最も大きな怖れをもつのは、わが国の大きな宗教教団であろう。

安倍元首相の暗殺事件は、その観点から見なければならない。安倍さんは、ある大きな教団に関与しているようであり、かつ「陰謀団」に対しては、批判的なようすを見せている。少なくとも、明らかに彼らに媚びる岸田氏とは、正反対のようである。彼らがそう判断したとき、この教団の安倍氏を恨む一人に安倍銃撃の演技をさせ、彼ら自身が巧妙に有効に、安倍殺しを実行したと、容易に推定することができる。これには、この計画に関与した、かなり多くの者たちの協力を必要としたであろう。しかしそれは一切問わず、この教団を痛めつけ打撃を与えて、幕を引くというのは、彼らにとって上策であろう。そこからどれほど疑問や不満が湧き上がってこようが、そんなものは踏みつぶすのが、彼ら「陰謀団」のやり方である。わが国の政府もメディアも、これに協力し、同じ陰謀団のワクチン強制政策に彼らが従うように、従うであろう。